2.16　資産運用の分類（その１）

運用手法と成果測定を対（つい）にして覚える

ファンドの運用手法は、アクティブ運用とパッシブ運用、そして、その中間に位置するエンハンストインデックス運用の３つに大別されます。アクティブ運用はシャープレシオや情報レシオで、パッシブ運用はトラッキングエラーでその運用の成果（パフォーマンス）を測ります。

2.16.1　アクティブ運用、パッシブ運用、エンハンストインデックス運用

資産運用の手法を分類すると、最初に、アクティブ運用とパッシブ（インデックス）運用に分類されます。アクティブ運用とは、その運用がベンチマーク（基準とする市場インデックスなど）を上回ることを目指す運用です。

もう一つが、パッシブ運用です。こちらは、ベンチマークと連動した運用を追求する手法です。

細かくいうと、アクティブ運用とパッシブ運用の間にエンハンストインデックス運用があります。原則として、パッシブ運用だけれど少しだけアクティブ運用が許された運用ということができるでしょう。

シャープレシオ	情報レシオ
（リスク 1 単位当たり）預貯金に預けていた場合に比べてどれだけ上回っていたか	（相対的なリスク 1 単位当たり）パッシブ運用に比べてどれだけ上回っていたか

2.16.2　ファンドのパフォーマンス評価

アクティブ運用のファンドのパフォーマンスを評価するときには、シャープレシオ（2.7）や情報レシオ（2.8）が役に立ちます。
パッシブ運用の場合の運用の尺度は、トラッキングエラー（2.8）になります。トラッキングエラーは、ファンドの値動きとベンチマークの値動きのギャップを示す指標です。トラッキングエラーが低いほどパッシブ運用の評価は高まります。
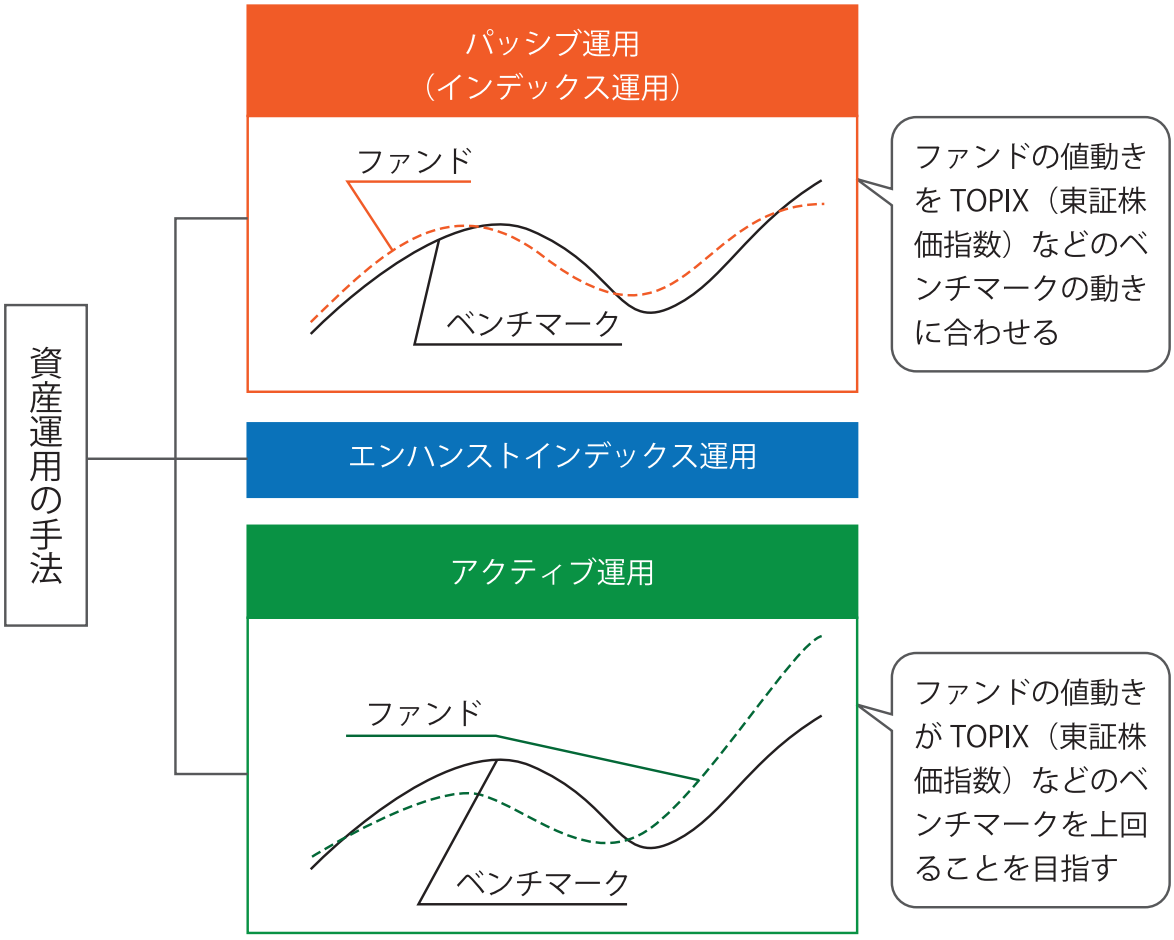
図 2.14　資産運用の手法